第 1 版（2026 年 9 月 10 日作成）

信州大学医学部脳神経内科、リウマチ膠原病内科で AH アミロイドーシスの診断を受けた患者様またはご家族・ご遺族の方へ

「AH アミロイドーシスにおける免疫グロブリン重鎖可変領域の使用バイアスの検討と断片化機序の解明」に関する臨床研究を実施しています。

信州大学医学部倫理委員会の承認を受け、医学部長の許可を得て実施しています。この研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされています。

研究課題名	AH アミロイドーシスにおける免疫グロブリン重鎖可変領域の使用バイアスの検討と断片化機序の解明
所属(診療科等)	信州大学医学部保健学科生体情報検査学
研究責任者(職名)	矢﨑正英（教授）
研究実施期間	医学部長による許可日～2031 年 9 月 30 日
研究の意義、目的	AH アミロイドーシスの発症機序を明らかにすることを目的とした研究で、将来発症予防や治療法の開発に貢献すると考えられます。
対象となる方	2003 年1月から 2026 年 9 月 30 日の期間に当院で AH アミロイドーシスと診断された方（AL アミロイドーシスとは異なる疾患です）
利用する診療記録／検体	診断名、年齢、性別、身体所見、病歴、検査結果、アミロイド蛋白のアミノ酸配列情報・分子量など／組織など
研究方法	診断時に得られたアミロイド蛋白の情報を再度検討し、正確な免疫グロブリン重鎖のタイプを判定し、特定のタイプへの方より（使用バイアス）がないか検討します。診断時に使用した組織検体が保管されている場合は、再度アミロイド蛋白を解析する場合があります。
共同研究機関名	本研究は、信州大学のみで実施されます。
問い合わせ先	氏名： 矢﨑正英 （信州大学医学部保健学科生体情報検査学 教授） 電話:0263-37-2388

既存の検体や診療記録、検査結果を研究、調査、集計しますので、新たな診察や検査、検体の採取の必要はありません。

当院外へ患者様を直接特定できる個人情報がでることはありません。

必要な情報のみを集計します。研究成果は今後の医学の発展に役立つように学会や学術雑誌などで発表しますが、患者様を特定できる個人情報は利用しません。

この研究にご自分の診療記録等を利用することをご了解いただけない場合、またご不明な点については、上記問い合わせ先までご連絡くださいますようお願いいたします。

研究不参加を申し出られた場合でも、なんら不利益を受けることはありません。ただし、参加取り消しの申し出をいただいたとき、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合や、試料や情報が匿名化されて個人が全く特定できない場合などには、結果を廃棄できないこともあり、引き続き使わせていただくことがあります。